

津島市市政報告会（神島田小学校区開催）会議録

日程 令和6年7月14日（日）
午前10時～11時20分
会場 神島田公民館

1 開催対象

神島田小学校区にお住まいの方（参加者：75名）

2 内容

市長説明（10：02～10：45）

質疑応答（10：46～11：20）

3 市長説明

テーマ「津島市の取り組みについて『まちづくり、子育て支援、そして定住へ』
つしま未来創造予算を中心に」

4 質疑応答（要旨）及び回答

（1）消滅可能性自治体について

意見

津島市が消滅可能性自治体と新聞に書かれたことについて、先ほどの説明にあった通り日比市長が就任した以前の年のデータを基にしたということであれば、日比市長からの言葉で弁明するべきだと思います。日比市長の任期中の結果であれば、津島市が消滅可能性自治体と言われても仕方がないと思うが、日比市長が就任してから回復傾向になったということであればそれは違うのではないかと。テレビ局各社には、津島市を消滅可能性自治体と報道したことについて、謝罪していただかなければ。新聞に対しても、10年から20年前の統計による結果を発表したことを謝罪する旨の記事を掲載させてはどうか。

市長

消滅可能性自治体の問題についてはもう少し対応に時間がかかる。津島市においては、大きな人口移動があった3つの期間がある。それらの期間は、平成17年から平成22年まで、平成22年から平成27年まで、平成27年から令和2年までに当たる。消滅可能性自治体の調査は、これら3つの期間のデータを基に、2050年までの人口移動を予測して算出したものである。平成27年から令和2年までは、私が市長に就任してからの期間であるが、その後の令和3年から令和5年までの回復傾向は調査に反映されていない。現在の回復傾向が継続されれば30年後に津島市が消滅することはないと思うが、過去の2期分のデータに影響されて悪い結果となってしまっている。

令和3年から令和5年までの期間を含めた統計を企画政策課にて作成したが、これも

あくまでも1つのデータであり、推測値に過ぎない。そのため、実績値である東洋経済が作成した「都市データパック」を参考にすると良い。

私自身も、津島市が消滅可能性自治体と言われることを残念に思っている。津島市に強い思いがある市民の方々には、今回私が提示したデータを根拠として、津島市は消滅可能性自治体ではないと広めていってほしい。これからも、市と市議会が市民の方々と一緒になって津島市を盛り上げていくことが大切である。素晴らしいコミュニティを持っている神島田校区の方々、一人ひとりが地域のための行動をすることに期待している。

(2) 日光川の右岸道路について

意見

日光川の右岸道路は防災道路となっているが、整備が全く進んでいない。私が住んでいる団地の近くにおいても、100メートルほど工事されたまま放置されている。梅雨の時期でもあるため、いち早く防災道路の対策をするべきである。

市長

愛知県の第3次あいち地震対策アクションプランには、南海トラフ巨大地震を含め、来るべき災害に備えて河川沿いの堤防を整備しなければいけないという旨が書かれている。7月12日には、愛知県河川海岸協会委員会・総会に出席し、進捗状況などについて話を聞いた。また、先週は津島市商工会議所にて、愛知県の幹部や海部津島地区の県議会議員と会議を行い、日光川を始めとする河川の安心安全を確保することの重要性を共有した。津島市としても海部地域が一带となって対策をしていくことが重要であると県に訴えかけているが、対応が遅くなってしまうのが現状である。県に対しては、これからさらに強く訴えかけていかなければならない。

(3) 南の玄関について

意見

令和3年12月にマスタープランが策定され、津島駅周辺を正面玄関として、東西南北に玄関を作るということであったが、本日、東、北、西の玄関についての説明があったのにもかかわらず、神島田小学校区がある南の玄関については触れられていない。まちづくり推進中ということで、南の玄関についても開発中ではあると思う。日比市長が1期目の任期中にこのことについて地域へのアンケートを取って、その結果を朗読したことを記憶している。建設の音を普段から聞いていて、開発が進み、企業がこのエリアに進出してきたと感じている。企業の進出が財政や地域への様々な効果を与えることも理解している。それらが建設されて稼働されたのち、市長の任期が終わった5年後、10年後は南の玄関をどうしていくのか。

市長

10年に一度改定することができるマスタープランは、津島市のまちづくりの原点となるものであるが、令和3年12月に改定することができた。東西南北の玄関となる地域は

全て市街化調整区域であり、基本的には新たに家を建てることができない。この市街化調整区域のまちづくりを戦略的に進めていくために、ゲートウェイプロジェクトを開始した。市街化調整区域においては開発をすることができないというのが国や県の方向性であり、これまで対処することができなかったが、マスタープランの策定によって戦略的にまちづくりを進めることができるようになった。

しかしながら、永和駅などのいくつかの駅の周りが最優良農地であり、農地法の規制によって開発することができないという大きな課題もある。少しでもできることとして、マスタープラン改定以前に、鹿伏兎町に企業誘致エリアを設置した。これからは南の玄関をどうしていくかが重要課題である。

市職員

10年前には唐臼町と神守町に第1種低層住居専用地域があった。愛知県からは、その土地利用を解決していないのであれば、市街化調整区域の土地利用は原則認めないという条件を提示されていた。実際には、平成27年から唐臼町と神守町にあった第1種低層住居専用地域を解除し、令和2年になってようやく用地の約7割が完成した。それに併せて、鹿伏兎町での企業誘致などを行っているが、実際に永和駅周辺に工場ができてから、従業員数が200人以上増えたという事例もみられる。また、来年には一宮西港線のルートが新たに発表され、そのために津島駅と永和駅の市街化調整区域をまとめて見直す必要がある。もう少しお時間をいただきたい。

市長

実は、平成27年から唐臼町と神守町の市街化調整区域を大幅にバージョンアップし、これまでできていなかったことがほぼ完了に近づいており、次のステップに移ることができる段階にある。南の玄関構想についても、担当者と合わせて県に働きかけを行っていく。

(4) 人口減少とポスティング業者について

意見

人口が6万人を下回ったが、この下がり幅は想定内なのか。

令和6年度から広報のポスティング業者が変わったということを知った。広報5月号の配布に遅れが生じており、私の場合、5月30日に手元に届いた。ポスティングの年間2,000万円の金額にも増減があったのか。

旧尾張津島観光センターが開発されているが、いつ頃完成されるのか。

市長

1年ほど前、日本の人口が1億3,000万人から50年後には8,700万人になり、約3割まで減少することが確実だと言われていた。ある団体は、8,700万人という数値は夢物語であり、人口が8,000万人を下回らないように対策しなければならないと言っている。また、かつては女性1人当たりの出生率が1.26を下回るかもしれないと言われていたが、2か月ほど前に記録された出生率は1.20であった。

津島市の人口が6万人を下回ったというのも重要な1つの指標である。しかしながら、いずれ総人口が今の7割へ減少するというのが日本の総人口である。参考として挙げれば、現在のドイツの人口が約8,700万人、フランスの人口が約7,700万人、イギリスの人口が約3,500万人前後である。これらのヨーロッパ主要3か国は、人口減少に直面していても後進国となっていない。ある程度の人口減少は想定しなければならず、ヨーロッパの例からどのような対策ができるかを考える必要がある。スウェーデンは世界でトップクラスの豊かさを持つ国であるが、人口はそれほど多くはない。人口の形態が小規模であっても、豊かで安心安全なまちづくりを行うことが可能であり、このことが人口減少に対する正解なのではないかと考えている。津島市の人口が5,000人減少しても税収が増加したように、一つひとつの物事を丹念に見極めて、戦略的に、公として、市長として、職員や議会と協働しながら日本流で施策を進めていきたい。

市職員

広報のポスティングについては、今年度から新たに中日総合サービスから他の業者へと変わった。業者の選定は入札により行い、ポスティングの金額は下がっている。金額の詳細についてはここでは把握していない。毎月末に配布が完了するように、月末5日前から配布を開始しているため、市民の方々に広報が届くのはこの期間内である。ポスティング業務の詳細については、担当の市民協働課に問い合わせいただきたい。

市長

現在、津島神社南門近くの旧わざ・語り・伝承の館、旧図書館を解体しており、食事や買い物ができる施設を建設する計画を6月から公募にて進めている。天王通りについても、朝日寿司の北側のあたり一帯を歩きながら楽しめる場所として開発している。

市職員

尾張津島観光センター跡地については、令和7年12月に民間事業者がオープンできることを目標としている。令和8年10月に、津島神社が国幣小社に昇格してから100周年を迎える。100周年を迎える正月の初詣の前までに、当施設が完成できれば良いと考えている。旧いちい信用金庫天王通り支店の土地利用に関して、7月中旬から公募を開始し、令和8年4月のオープンを目指している。

(5) 永和駅の開発について

意見

永和駅北口の開発を早急に進めてほしい。

市長

永和駅については、いくつか農地の関係もあるが頑張っていきたい。

(6) 水道水の安全性について

意見

津島市の水道水は安全な水なのか。現在、あらゆる場所で発がん性のあるPFASで水道

水が汚染されているという話を聞くが、津島市はどの程度把握しているのか。

市職員

上下水道部に所属していたことを踏まえ、回答する。消火剤（PFAS）の問題については、津島市において問題がないことを確認済みである。私が上下水道部にいた時には水道水の質が悪いという批判を市民から受けていたが、現在は全ての項目をクリアしている。上下水道部では毎日点検を実施しており、神島田小学校区では神島田祖父母の家や鹿伏兎町南あたりで実施しているため、安心して使用していただきたい。